復活節第4主日 メッセージ 「良い羊飼いの主日に」 司祭 バルナバ 牛島 幹夫
ヨハネによる福音書 10:1−10

復活節第4主日は良い羊飼いの主日と言われます。3年周期の主日聖書日課では、それぞれの年に良い羊飼いであるイエスの姿が書かれているヨハネによる福音書の10章が三つに分けて読まれます。今日の聖書箇所には、「わたしは羊の門である」と書かれています。また、B 年の聖書箇所では、「私は良い羊飼いである。」と、C 年の聖書箇所では、「わたしの羊はわたしの声を聞き分ける」という言葉が書かれています。良い羊飼いであるイエスが、人々をどのように守り導くのかということを分かち合う主日だと言ってよいと思います。

さて、以前、直方の幼稚園のチャプレンをしている時のことです。先生達に「羊飼いのイメージってありますか?」と質問をしたことがあります。すると、みんなポカーンとしてしまって、やっと出てきた言葉が「アルプスの少女ハイジに出てくるペーターですか?」でした。ペーターは正確にはヤギ飼いなのですが、やっていることは同じと考えて良いでしょう。

アルプスの少女ハイジのアニメをご覧になった方は多いと思いますが、その中にあったワンシーンを紹介します。ある日のことです。ハイジが一番気に入っているユキというヤギの飼い主がペーターに「こいつは体が小さいし、乳も出ないのでもう飼うのをやめようと思う。」と言います。ユキにもう会えなくなることを悲しんだハイジは、おじいさんにそのことを訴えます。すると、おじいさんはペーターに山で一番良い草が生えている場所を教え、ユキをそこに連れて行って食べさせるように強く命じたのです。ペーターは怖いおじいさんの言うことを聞き、そのためにずいぶん苦労をするのですが、おかげでユキは良い乳を出すようになり、飼い主はユキを手放すのを思いとどまったのです。

良い羊飼いと聞くと私は、このペーターの姿を思い起こします。一番良い草があるところは、必ずしも楽に行ける所ばかりではありませんが、羊のために最も良い食事のある所に連れて行き、羊の健康を守るのが羊飼いの役目なのです。また、夜は、羊飼い仲間と交代で寝ずの番をし、猛獣や盗人から守ります。独りの羊飼いが面倒を見るのは50匹から100匹の間くらいだったそうですが、羊飼いはそのすべてに名前をつけたのだとも言われています。

以前テレビで、動物園の職員の方が世話をしている50頭くらいのカンガルー全部に名前をつけていて全て見分けがつくということを紹介しているものを見た事があります。本当に一匹一匹を大切にしなければそんなことはできません。イエスが良い羊飼いという時には、そのような姿も重なるのではないでしょうか。そして、イエスが飼う羊とは、まさに私たち一人一人のことです。イエスは、私たち一人一人を大切にし、その声を聞き分ける方、一人一人の名を呼ぶ方なのです。私の声を知っている私たちの羊飼いであるイエスに信頼して歩みたいものです。

さて、今日復活節第4主日は良い羊飼いの主日にちなみ、神学校のために祈る日として日本聖公会で定められています。今日の礼拝で献げる信施金は、日本聖公会全体で集められ、聖公会神学院とウイリアムス神学館の働きに用いられることになっています。そのことを覚え、今日の礼拝を教会で守っていれば献げていたはずの献金を、神学校のための献金として別に分けておくようにお勧めいたします。そして、礼拝が再開される時、神学校の働きを覚えて、礼拝でお献げくださいますようにお願いいたします。